

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	身近な人々や、ゆたかな自然とたくさんふれあうことに日々勤めるよう努力している。「よろこび」や「はりあい」にあふれた毎日であるよう感謝して暮らしている。	理念については来訪者の目にふれ易いように玄関や居間に掲示し共有に努めている。職員に対しては月1回の職員会議の席上、「よろこび」「はりあい」「生きる力」をキーワードとした理念について話し合い、自然に恵まれた中で畑作業等を楽しみ、自由な生活を送ることを目指し活動している。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様との交流を多くつくるように努め利用者とのつながりを持ちながら暮らしていきたいという思いだがコロナ禍であるため、施設内での職員との関わりを多く持つ努力をした。	開設以来、区費を納め地域の一員として活動している。新型コロナウイルスの影響を受け殆どの地域行事が中止となり残念な状況が続いている。そのような中、地域の住民から野菜等の差し入れを沢山頂きホームとして感謝をしている。コロナ収束後には地域行事への積極的参加や地域ボランティアの受け入れ、高校生や大学生の職場体験の受け入れ等を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の資金や人材確保が苦しい状況にあるなか、「サービスの継続こそが最大の地域貢献」と捉えて、持続可能な体制づくりに職員とともに適進している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍である本年度は地域包括支援センターの方とのみの開催に留まった。年度末には活動状況を書面にて共有する予定である。	例年であれば利用者、家族代表、地区代表、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、密を避けるためもあり開催することが出来なかった。コロナ収束後には地域包括支援センターと相談・連携を図り、来年度、開催する予定がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスに関する必要な報告・相談・連絡はもちろんのこと、事業継続について相談を随時行い、応援もしていただいた。	地域包括支援センターとは入居状況等を始め様々な事柄について相談し運営面に役立てている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪して行われ職員が対応している。現在、地域ケア会議はコロナの影響を受け中止されているが、再開されたら積極的に参加する予定がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「帰宅願望」の強い利用者様の利用においてもコミュニケーションによる解決方法を図るなど一切の拘束をしていない。また、コロナ禍であっても対策を徹底して家族等との面会を実現してきた。	拘束を必要とする利用者はなく、常に、拘束のない支援に取り組んでいる。外出傾向の強い利用者があるが、趣味の話等をして行動抑制をせずに寄り添う支援を徹底している。きめ細かな所在確認に心掛け玄関は開錠されている。月1回の職員会議の中で拘束をしないケアについて話し合い、特に「声掛けの仕方」等に留意し支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	連携事業所における研修時に職員教育を行っている。また、毎日の朝ミーティングにおける確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	連携事業所における研修時に職員教育を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当然の責務と捉えて、契約に限らず小さなことでも家族とコミュニケーションを取るようLINEなどを活用している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族からの申し出や意見は、必ず朝ミーティングやオンラインツールを通じて報告するように通達。上がったご意見について、職員が一丸となって解決に取り組める雰囲気づくりを心がけている。	家族のような深い繋がりが持てるよう心掛け、思いを受け止めるようにしている。家族の面会については自粛状態が続いていたが、新型コロナ感染が落ち着き見せていることから現在は事前に連絡を頂き、ワクチン2回接種を条件に感染対策を取った上で面会を行っている。そうした中、かかりつけ医への受診やお墓参りに家族と外出する方もいる。更に、利用者の様子を毎月の請求書とともに手紙でお知らせし、合わせてスマートフォンを用い一人ひとりの写真に一言添えてお知らせし喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝ミーティングおよびオンラインツールの活用で常に職員の意見を取り入れている。	月1回職員会議を行い、法人からの連絡、環境改善についての話し合い、利用者一人ひとりの状況についての検討、意見交換、各種勉強会などを行いサービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の直接的コミュニケーションはもちろん、オンラインツールを活用して(夜勤を含めた)個々の仕事状況を理事は把握し、個々の待遇改善に反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	提携事業所での研修、提携事業所からの指導者や職員を招き、業務を実践しながらケアの知識やスキルがアップできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	提携事業所と人材交流を行っている。また、木島平村社協情報交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーによるアセスメント内容はもちろんだが、職員それぞれがご利用者様と冗談が言えるような雰囲気づくりをしながら、早期に本音を話していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャーによるアセスメントはもちろん、情報収集や経験から困りごとの原因分析を行い、家族に提案することで信頼を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーによるアセスメントはもちろん、情報収集や経験から困りごとの原因分析を行い、家族に提案することで信頼を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、我が事、我が家族と考えて接している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、我が事、我が家族、我が身内と考えて接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であっても、親族、友人の面会はできるような感染対策の徹底を行い、実践してきた。	お孫さんや友人の来訪があり、ワクチン2回接種済みを基準に感染対策を取った上で面会して頂いている。お墓参り等に家族と外出される方もいる。また、コロナ禍で美容院への外出が難しいが続いているが、理容師の資格を持っている職員がおり利用者と話しながら散髪をしている。年末に向け、年賀状を職員と共に作成し、家族に郵送する予定がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルについては、丁寧に対応してその場を収めるとともに、原因となる課題を早期に解決して、再発を防いでいる(物の取り合い、やり方の違いによる言い合い)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍であっても、親族、友人の面会はできる よう感染対策の徹底を行い、実践してきた。また、状況をLINE、電子メール、面談等で家族、親族に伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご利用者様の「真の」意向を汲むようにしている。	全利用者が自分の意向を伝えられる。食事については「ご飯がいいですか麺類がいいですか」等、提案をし好みの物を選んでいただけるように準備している。また、畑作りの際にはどんな野菜を作りたいか聞き、希望の物を作るようにしている。日々の支援の中で聞いた情報は業務日誌とタブレットに纏め、毎朝の申し送りで共有し業務に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	様々な方法でこれまでのご経験や体験に関する情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が個別に把握した生活状況をミーティングや電子ツールで共有し、全体が把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が個別に把握した生活状況をミーティングや電子ツールで共有し、全体が把握するようにしている。	日々の関わりの中での訴えや状況を受け止め、毎朝行われるミーティングの中で話し合い、情報を共有し気付いた事柄についてはタブレットに残し、家族の希望は面会時に聞きケアマネージャーがプランの作成を行っている。入居時は家族との面会で聞いた情報を基に1ヶ月間様子を見て改めてモニタリングを行い本プラン作成に繋げている。短期目標は3ヶ月毎に見直し、状態が安定している場合は6ヶ月での見直しとなり、また、状態に変化が見られた時には随時見直し、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化を捉えること、その変化(点)を線につなげられるように話し合いと創意工夫を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなグループホームのあり方を検討し、創意工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	物品調達などもできるだけ地域事業者を活用し、そのなかからご利用者様が関われることを探そうよう努力している。ただし、今期はコロナ禍ということもあり実績はない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診にお連れできない方はすべてサポートする体制を設けている。	入居時に医療機関についての希望を聞いている。現在は全利用者がホーム協力医への受診で対応している。ケアマネージャーが看護師でもあり、利用者の健康管理に日々取り組んでいる。歯科については必要に応じ協力歯科の往診及び受診で対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携事業所の看護師に週1回のペースで受診、看護を受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とともに入退院時のサポートを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年度から「看取り」までの対応は行わないこととなり、重度化がみられる場合は、最適なサービスへの移行について家族に助言し、そのための支援を行えるようにしている。	重度化した際の指針があり利用契約時に説明している。食事や入浴が難しくなり重度化に到った時には、家族の意向も確認の上、ホームとして出来る限りの支援に取り組み、医療機関や他施設への住み替えを含めた支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のガイドラインを設けるとともに、発生時は家族が間に合わなくとも病院に搬送できるよう理事等が同行できる体制を構築している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ガイドラインを設けるとともに訓練を行っている。	今年度はコロナの影響を受け、令和4年3月に防災会社の協力を得て防災訓練を行う予定を立て、防災機器の点検と合わせ、通報、避難誘導、消火訓練等を予定している。また、緊急連絡網の訓練はスマートフォンを用い、一斉送信で訓練を行っている。備蓄については食料品3日分と合わせ、石油ストーブ等が準備されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、尊厳を守ることは職員の義務としており、声掛けは常に行っている。	家庭的な雰囲気を大切に、「一人ぼっちにさせない、ボツとさせない」ことを大切に、支援に当たっている。また、利用者一人ひとりの尊厳を守り、生活歴を参考に利用者の出来ることを把握し支援している。呼び掛けは地域に同じ苗字が多いため、名前に「さん」付けで行っている。入室の際には「ノック」「入ります」の声掛けを忘れないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意向を伺うことを必須としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望のある方にはできるだけそれを尊重するようにしている。ただ、職員数に限りもあるので、外出や集団レクなどは、参加を促しありご賛同いただくことを徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お着替えなどの時間にゆとりを持てるよう配慮している。姿見などの設置を計画している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けをされたい方にはご参加いただいている。	利用者全員が自力で食事が摂れる状況である。副食については季節感を加味した配食食材を用い、主食のお米は木島平産の美味しいものを使い、汁物はホームで調理し提供している。行事の際には希望を聞き、1品プラスしてお出し、正月、クリスマス等には季節感を加味した料理を提供している。利用者もトウモロコシや根曲竹の皮むき、枝豆もぎ等、昔から慣れた手仕事を楽しみながら参加している。また、夏場には玄関前で焼肉バーベキュー等も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食の調達を専門業者から行うことで栄養のバランスをよりしっかりとさせた。水分補給は摂取回数などの記録も行い丁寧に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。入れ歯の洗浄もしっかりと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身のペースで排泄に行けるよう、雰囲気作り、支援体制を整えている。	全利用者が自力で排泄でき布パンツを使用している。自分のペースでトイレに行かれているが、時折、様子を見て時間の間隔が開いている場合は声掛けし誘導することもある。また、排便促進を図るべく、麦茶やスポーツドリンク等で水分摂取にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取をおやつも含めて行う。また、レクリエーションに軽運動を取り入れている。便秘がみられる場合、医師への相談を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	設備(施設)の問題から、職員の見守りが絶対的に必要であるため、時間帯は限定している。入る、入らないについてはできるだけ本人の意向を尊重しつつ、促しも行う。	利用者全員が見守りを受けながらも自立している。入浴については基本的には週2~3回入っているが、希望があれば毎日でも対応している。季節に合わせて「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等も行い、季節感を楽しんでいる。コロナ収束後には近くの温泉施設に出掛ける予定を立てている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に熟睡できることを最も重視し、日中は過度に休みすぎたりしないよう配慮。薬に頼らず自然な睡眠ができるよう適度な運動も心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録を含めて多重なチェックを行うとともに、万が一、服薬ミスがあれば重大インシデントとして再発防止策をとるよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のお考えをできるだけ尊重し、「包丁」「針」「園芸道具」など危険を伴うものであっても、職員が見守りながら使っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出レクを行う。また、庭先の手入れなどを一緒に行っていた。	全利用者が自力で歩ける状況で、天気の良い日には山々を見ながらホームの見える範囲で散歩している。また、時折、近所のお寺や近隣の家の季節の花や畑の様子を眺めながらの散歩も楽しんでいる。更に、春から秋にかけての土曜日には外出ドライブを行い、自宅の様子を見に出掛けたり、季節によっては飯山の「菜の花」見学にも出掛けている。コロナ収束後には年間計画を立て外出レクリエーションを行う予定である。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のご利用者様は金銭管理が不可能であることから、所持や使用の支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在のご利用者様はご家族のご要望もあり、個別での通話は支援していない。面会や自宅外泊があるためか、手紙のニーズはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設の特徴である「庭」が常に見えるようにして、季節や時間を感じていただけるようにしている。	民家改修型の当ホーム玄関前には大きな石と池があり錦鯉が泳いでおり、家庭的な雰囲気が漂っている。玄関には理念が大きく掲示され支援方針が明確にされている。広い居間には食事テーブルと大きな仏壇、ソファ等があり、寛ぎのスペースを作り出している。トイレは3ヶ所あり1ヶ所は車いす対応となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でも過ごせる場所(ソファ、椅子)を施設内に数か所設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は基本的に干渉していない(危険物の持ち込みや危険な配置は断っている)。自分の大切なものは皆さんに持って来てもらっている。飾りも自由にさせていただく(職員も手伝う)。	各居室は十分な広さがあり、自由な生活空間が確保されている。入り口には表札が掛けられている。持ち込みは自由で、位牌、衣装ケース、ハンガーラック、ソファ等が持ち込まれ、季節の花や家族の写真にも囲まれ、自由な日々を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は浴室以外は自由に移動できるように開放している(浴室は浴槽への転落防止のため、未使用時は施錠)。目的の場所に行けるよう、手すりの設置、段差の解消などを常に配慮している。		